

令和5年度 山形県立南陽高等学校 学校評価書 （自己評価・学校関係者評価）

学校教育目標	「自修」： 自ら学ぶ意欲を育て、確かな学力を身につけさせる。 「自律」： 自ら考え、主体的に行動できる力を育てる。
	「自助」： たくましい心身と豊かな人間性を育てる。 「和敬」： 郷土を愛し、社会に貢献する態度を育てる。
育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	1 自ら学ぶ意欲を育て、変化の激しい社会で自立して生きるために必要な学力を育成する。 2 他者と協働して様々な活動に取り組むことができるコミュニケーション能力を育成する。
	3 命を慈しみ、思いやりの心を持って自他を尊重できる豊かな人間性を育成する。 4 地域や郷土を愛し、より良い地域づくりに主体的・意欲的に取り組む態度を育成する。

達成度	A	達成
	B	概ね達成
	C	やや不十分
	D	不十分

重点目標	1 主体的な学習を促す授業の充実 2 自主性を育むキャリア教育の構築 3 視野が広く、地域社会に貢献できる人間の育成
	4 「いのち」を大切に作る安全・保健指導 5 社会に開かれた信頼される学校づくり

自 己 評 価					
重点目標	評価項目	具体的方策や指標・基準等	達成度	目標の達成状況・達成にむけた取組み状況と分析	次年度に向けた課題と対応策
1	①主体性や学びに向かう意欲・態度を育む学習指導の推進 ②一人一台端末の活用を含む個別最適な学び・協働的な学びの研究・実践 ③学校図書館の利用拡大と読書習慣の確立	①生徒は課題意識を持って主体的に学習に取り組んでいる。	B	・生徒アンケートでは主体的に学習に取り組んでいると回答した生徒が多いが、家庭での学習状況には改善すべき点もある。 ・個別最適な学び・協働的な学びを目指したICT機器等の活用状況は概ね良好であり、一定の成果を上げている。 ・授業評価アンケートの他に校内研究授業をのべ14回実施した。英語科は大学教員からの指導も得ながら授業改善に取り組んだ。 ・学校図書館は適切に整備されており、利用促進についても図書委員会を中心に活発に行われた。 ・生徒の読書習慣については個人差が大きい。	・学びの主体性を高める学習指導法を引き続き研究する。 ・ICT機器の活用状況について、生徒・教員共に個人差の解消を目指す。 ・新教育課程の完成年度を迎えるに当たり、指導と評価の一体化に関する職員研修会の開催や3年間の総括を行う。 ・学校図書館において、WEB蔵書検索プログラムの認知度を上げ、さらなる利用促進に努める。
		②個別最適な学び・協働的な学びの実現のためにICT機器等を有効活用している。	B		
		③各種研修、研究授業、授業アンケート等を通して、授業改善に努めている。	B		
		④学校図書館は適切に整備され、生徒に利用促進を働き掛けている。	A		
		⑤生徒は読書習慣が確立されている。	B		
2	①3年間を見通した系統的な進路指導 ②地域探究学習を通した課題解決能力の育成と自己の生き方在り方に対する考えの深化 ③外部講師を活用した視野の拡大や社会人としての見方・考え方の育成	①3年間を見通した系統的な進路学習ができるよう、生徒に必要な資料や情報を提供している。	B	・進路指導室にて適時必要な資料や情報を生徒に提供することができたが、来室する生徒に限られる傾向にあった。 ・進路指導に関する職員研修会を実施し、3年生の個別指導の充実を図った。 ・地域探究学習を通して自らの生き方在り方に関する考えを深め、大半の生徒が進路に生かすことができた。 ・南陽市役所に南陽高校応援部が結成され、随時本校から相談・依頼できる体制を整えていただいた。	・生徒が自らの進路を主体的に考えられるよう、系統的な進路指導となるように計画を改善する。 ・多様な進路目標実現のために求められる学力の向上とそれを実現する職員の指導体制確立を目指し、各種研修会を行う。 ・地域探究学習をより効果的なものにするために、組織的な指導を強化する。
		②全職員での進路指導体制が確立されている。	B		
		③地域探究学習を通しての問題解決の育成や自己の生き方在り方に対する考え方の深化が図られている。	B		
		④外部講師による講演会を積極的に開催しており、進路意識の高揚につながっている。	B		
3	①地域探究学習を通じた地域理解と郷土愛の育成、地域貢献の意欲向上 ②地域人材を活用し地域と連携した地域探究学習の推進 ③自主的で他者と関わる生徒会活動・部活動・学校行事の実践	①地域探究学習を通じて、郷土への誇りと愛着を育み、地域に貢献する意欲が醸成されている。	B	・総合的な探究の時間の取組みを通じて地域理解を深めることができたが、分野・領域としてはやや限定的であった。 ・地域人材を活用し、地域と連携した地域探究学習を行うことができたが、回数が少なく、活用方法に課題があった。 ・コロナ禍が明け、生徒会活動や部活動、学校行事が外部に開かれるものになったが、生徒にとっては初めての経験が多く、自主的な内容とは言えない部分があった。	・総合的な探究の時間の取組みを通じた地域理解や郷土愛の育成、地域貢献意欲の向上により効果的な計画に改善する。 ・地域との連携強化のために、地域人材活用をより効果的な在り方に改善する。 ・コロナ禍で経験値の低い生徒が多いため、自己有用感育成に効果的な計画と指導体制を整える。
		②地域人材を積極的に活用した、地域と連携した地域探究学習が実践されている。	B		
		③生徒会活動や部活動、学校行事は自主的に行われており、他者と関わるものになっている。	B		
4	①学校安全保健計画に基づいた健康教育及び安全教育の充実 ②外部講師による各種講話を通した人間関係づくりや「いのち」を考える指導の充実 ③スクールカウンセラーとの連携による生徒に寄り添った教育相談の推進	①各種健康診断や検査、清掃や設備点検・管理が適切に行われている。	B	・危機管理マニュアルを改訂し、設備点検・管理も、概ね計画的かつ適切に行われた。 ・各種健康診断や健診、清掃も概ね計画的かつ適切に行われたが、受診勧告による受診率は低迷している。 ・外部講師による各種講話を通じて、人間関係づくりや「いのち」について考える指導が計画的かつ効果的に行われた。 ・スクールカウンセラーと連携し、生徒に寄り添った教育相談を行うことができた。 ・スクールカウンセラーに限らず、各種相談に適宜対応し、生徒が安心して生活できる環境づくりに努めた。	・防災訓練においては、初期消火訓練の追加も含め、より臨場感のある計画を立てる。 ・疾病治療や精密検査の受診率向上に向けて、保護者等への連絡手段についてさらなる手立てを検討する。 ・様々な事情を抱えた生徒への支援の在り方について、組織的・計画的に対応できるような体制づくりを図る。
		②外部講師による各種講話を通じた人間関係づくりや「いのち」を考える指導が計画的に行われている。	B		
		③スクールカウンセラーと連携し、生徒に寄り添った教育相談が行われている。	B		
		④本校は相談しやすく生徒が安心して生活できる雰囲気である。	B		
5	①地元の小中学校と連携した取組の推進 ②保護者等や地域への教育活動の公開や情報発信	①ボランティア活動や学校以外での社会体験に参加しやすい環境づくりが行われている。	B	・JRC・インターアクトクラブの部員をはじめ、多くの生徒が社会参加・ボランティア活動に取り組んだが、実人数は多くはない。 ・インスタグラムで公式アカウントを開設し、情報発信に努めた。 ・地元紙や市報に取り上げていただく機会が多く、情報発信に繋がった。	・より多くの生徒が社会参加・ボランティア活動に取り組めるような仕組みを整える。 ・インスタグラムの投稿数を増やし、多くの人にフォローしていただけるように周知に努める。 ・今後も各種行事の機会をとらえ、地元紙への記事掲載の依頼を積極的に行っていく。
		②本校の教育目標やその達成結果が、生徒・保護者等にわかりやすく伝わっている。	C		
		③開かれた学校づくりを進めるために、マスコミやホームページを通じた情報発信に努めている。	B		

学校関係者評価
意見・要望・評価等
・学習指導要領が新しくなり、新しい分野やICT機器などを教員も新しく学びながら教科指導している様子が伺え、敬意を表する。
・新教育課程の完成年度に向けて、地域探究学習のさらなる充実に期待したい。
・地域探究学習の発表会を踏まえ、定型にはまり過ぎず、より柔軟な探究活動を期待する。
・地域探究学習で地域人材をより有効活用できるよう、もっと情報共有できると良い。
・南陽みらい議会など、学校外での地域の大人との関わりが参加生徒を大きく成長させているので、そういう機会を増やせると良い。
・いじめに起因した不登校はないそうだが、教員との関係性や学校そのものと合わないことから不登校になることもあり得る。居場所づくりなどで可能な限り地域でも協力したい。
・コロナ禍が明けて、生徒はようやく一歩前進できた印象がある。
・生徒のために、学校と家庭、地域の関係を強化していきたい。